

協力隊活動報告

渡辺隊員報告

2月に入りました。下仁田町における観光は「なんとなく」オフシーズン。そのような時季でも現在は個人による多様な形で観光や旅行があります。そういった形で下仁田町にお越しになられた方々にまた足を運んでいただけるよう心地よい環境をしっかりと継続して提供していく事、そんな2月になりそうです。

また大井田隊員による企画「矢川 第四回交友会」が12月22日に開催されました。今回は私も参加させていただきました。和やかな雰囲気にもまれた素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

大井田隊員報告

昨年の12月、矢川区の高齢者の方の交流会『矢川交友会』も4回目の開催となりました。

クリスマス会を兼ねた今回は協力隊の渡辺隊員、沼田隊員の協力もいただきました。

毎回皆さんが楽しみにされている柳沢桂子さんによる読み聞かせや、日本舞踊の先生をお招きして美しい踊りを見せていただいたあと、全員で『ズンドコ節』を身体が暑くなるくらい踊りました。渡辺隊員がサンタさんになり登場し、クリスマスケーキとシャンメリーで乾杯!そして沼田隊員から焼きたて餃子のおもてなし!矢川区ではなかなか食べることのできない『一番』さんのアツアツの餃子を皆さん嬉しそうに召し上がっていました。今回の様子は上毛新聞にも掲載していただき、皆さんの嬉しい思い出となりました。回を増すごとに皆さんの笑顔が増えていることにとっても喜びを感じています。ただ今、市野萱区での交流会も計画中です。市野萱区の皆さんはカラオケがお好きな方が多く、市野萱区の特徴を活かした交流会を目指します!!また、南野牧区の一人暮らしの方の訪問もスタートする予定です。今後も高齢者の皆さんが元気に楽しく毎日を過ごされるよう努力してまいります。



小池隊員報告

慌しく一月が経ち、寒い時期になりました。

新春のイベントや協力隊全体会、ねぎの収穫イベントなどに参加し、忙しく動いて参りました。それでも冬季はイベントが少ないのですが、他の時間を任期後に向けた試みの一つとして3月より格闘技の動きを取り入れたフィットネス講座を開講致します。場所は下仁田町公民館の学習室で、時間は毎週木曜日19時より20時30分までです。誰にでも無理なく出来る運動を軸にしたいと思います。ダイエット・体力作りにはいかがでしょうか?

また2月23日19時~20時30分よりプレオープン記念として無料で体験できるイベントを開催します!

*要予約先着20名 予約は役場観光課 小池まで ☎64-8805



フェイスブックQR

片山隊員報告

群馬県立自然史博物館で1月14日から開催されている特別展「ぐんまの自然のいま」に下仁田ジオパークも出展しています。今回わたしは展示ポスターの企画・作成を担当しました。展示では下仁田ジオパークでこれまでに行ってきた体験活動の紹介をしています。展示を見た人がジオパークの面白さを知り、下仁田に興味を持つきっかけになればと思っています。ほかにも特別展では、群馬県内で活動する自然保護や保全を行う団体の活動を、標本などを使いながら紹介しています。特別展は2月19日(日)まで行われています。ぜひ足をお運びください!

ウメ (梅)

里見哲夫

一月も過ぎ、ウメの季節がやって来た。ウメと言えば菅原道真公のことを思い出し日本原産の植物と思うが、実は、中国の四川省・湖北省を原産とする植物である。文献では751年の「懐風藻」に初めて現れるが、最初の渡来は700年頃と推定されている。手元にある農業全書(1697年)を開いて見ると豊後梅と信濃梅が記述されていた。その他、砂糖漬け、梅酒、糠漬けさまざまな料理多しや、大き木を移しうゆるには、枝を大きめにきり去って、溝の泥を多く入れうゆれば枯れる事なし等の記述もある。

また、気象歳時記で大正13年の尋常小学読本5巻にウメの詩が載っていることを知り、その教科書さがしを数年かけてやっと、前橋市の教育資料館で見つけることが出来た。以下の詩で分かるようにウメは大切な食品であることが分かる。この教科書で勉強した人達に聞いて見たところ、記憶にないとのことでその詩をここに紹介して見ることにした。

第十 うめぼし

二月三月花ざかり うぐいす鳴いた春の日の

たのしい時もゆめのうち。

五月六月実がなれば 枝からふるいおとされ

きんじょの町へ持ちだされ 何升何合はかりうり。

もとよりすっぱいこのからだ しおにつかってからくなり

しそにそまって赤くなり。

七月八月あついころ 三日三ばんの土用ぼし

思へばつらいことばかり それも世のため人のため。

しわはよってもわかい気で 小さい君のなかま入

うんどう会にもついて行く

ましていくさのその時は なくてはならぬこのわたし。

こんな詩も、ジオサイトのガイドの時に使って見てはどうかと思っている。

ウメには多くの品種があって、この付近で一般的なものは「加賀」という品種である。歴史館の脇には水戸市から寄贈を受けた「烈公梅」が、野村丑之助墓地には、水戸市長親子から寄贈を受けた「紅白の梅」がある。

12月3日(土)下仁田たたら実演会を開催!!

砂鉄から鉄をつくる“たたら製鐵”は今年で2回目となりました。

8時にスタッフが集まり安全祈願が行われました。点火は火打石で古来の儀式に則り炉に着火されました。

天候に恵まれ、昨年の経験の積み重ねにより総勢70余名、皆手際よく積極的に働きました。また今年も二人の指導者に恵まれ、長となる福島村下(むらげ)とその師匠東工大名誉教授の永田先生も指導に当たられました。11時より永田先生から「世界で最もユニークなたたら製鐵」と題して、たたらへの神髄に触れたお話を聞きました。現場ではマイクの解説もありました。お昼には、鉄山研究会からの手作りすいとんでお腹を満たしました。

操業結果、今年は驚き!!なんと15.5kgの砂鉄から5.5kgの鋤(けら)が出来ました。その割合は35.5%!ちなみに前年度は25%(20kgの砂鉄から5kgの鋤)でした。次回の向上結果を楽しみにして大変お疲れ様でした。

〔注〕 村下…たたら作業の技術責任者 鋤(けら)…砂鉄からつくられた粗鋼

ウォーキングdeジオ 参加募集!!

早春の光の中、ウォーキングをしながらジオサイトを巡ってみませんか?それぞれのサイトごとに簡単な解説をします。

健康づくりにもなる、一石二鳥の企画です。奮ってご参加ください。小学生以下の方は保護者同伴でお願いします。

日時 2月18日(土) 午前9時 諏訪神社集合

コース 諏訪神社→下仁田層(化石観察)→川井の大断層(中央構造線)→青岩公園→はねこし峡→下仁田駅 解散11時30分頃

その他 参加申し込みは必要ありません。時間までに集合してください。
飲み水をお持ちください。

雨天や積雪の場合は中止します。判断に迷う時には、自然史館(70-3070)に問い合わせてください。

応援団員が全国デビューします

日本ジオパークネットワーク(JGN)では、ジオパーク活動を全国に普及するため、各ジオパークではどんな取り組みを行っているか、どんな魅力があるかを紹介した雑誌「Geopark Magazine」を毎年発行しています。

2017年4月発行予定のVol.4に日本ジオパーク下仁田応援団の堀口和利さん(青倉)が紹介されます。

堀口さんは主に、荒船風穴ガイドを行っておりますので、4月になったら堀口さんに会いに風穴へお出かけください。



ジオパークで
地域に活力を!!

ジオパーク推進だより

下仁田町自然史館
下仁田町大字青倉158-1
☎70-3070 FAX67-5315
<http://www.shimonita-geopark.jp/>

行事案内

下仁田自然学校普及講演会開催

下仁田自然学校の今年度の調査結果で、下仁田やその周辺で新たに貴重な宝があることがわかりました。当日は自然学校の先生にわかりやすくお話していただきます。ご近所お誘いあわせのうえ、ふるってご参加下さい。

日時 3月11日(土) 13:30~15:30 会場 下仁田町公民館

演題 「兜岩の昆虫化石について」 兜岩層件研究グループ 田中 敏明氏
「めずらしい下鎌田遺跡の白い耳飾」 金剛萱遺跡研究会 中村 由克氏

行事報告

たたら製鉄を行いました

12月3日(土) 昨年に引き続き、NPOものづくり教育たたら福島の宣行先生に指導をいただきながら、下仁田町自然史館でたたら製鉄を行いました。

尚、今年は東京工業大名誉教授永田和宏先生にもご参加いただき、鉄作りと平行して、本場出雲でのたたら製鉄の様子やたたらから作る刀剣の美しさなどについて講演いただきました。

当日は天候にも恵まれ鉄山研究会、日本ジオパーク下仁田応援団を始めとする多くの参加者が、鉄作りを体験したり、永田先生の話を楽しみました。今年は昨年の反省を踏まえ工夫を凝らした結果、より少ない砂鉄から鉄を作ることができました。

(昨年：砂鉄15.5kg⇒鉄5.5kg(約25%) 今年：砂鉄15.5kg⇒鉄5.5kg(約35.5%))



お知らせ

群馬県立自然史博物館特別展「ぐんまの自然のいま」に出展しています

群馬県内で長年にわたって地域に根ざして活動している自然保護、保全に携わる団体などの活動成果を、標本などを活用しながら紹介した企画展示に下仁田ジオパークからも活動紹介のポスターを出展しています。

【タイトル】ぐんまの自然のいま 【場所】群馬県立自然史博物館(富岡市上黒岩1674-1)

【会期】平成29年1月14日(土)~2月19日(日)

ねぎとこんにやくジオパーク

荒船の湯

寒くなると温泉に行きたくくなりますね。今回は温泉のジオについて少し解説します。

地下から暖かい水が湧き出ているものを温泉と言いますが、温泉には火山の熱が水を温める「火山性」のものと、火山の無い地域から湧く「非火山性」のものがあります。下仁田にある「荒船の湯」は「非火山性」の温泉です。この「非火山性」の温泉はどのような仕組みで温泉になるのでしょうか。一般的に、地下の温度は100m深くなるごとに3℃(平均値)高くなることが知られています。つまり、深く掘れば掘るほど地下の温度は上がっていき、地下水が温められます。荒船の湯では地下約1000mから温泉をくみ上げているので、地上の水温よりも30度程度高い温泉が出ているということになります。荒船の湯で温泉に入りながら、地球の活動を感じてみてください。

※下仁田町自然史館では、午前9時から午後4時まで展示室を開放しています、ぜひお出かけください。

※2月の休館日は6・20日です。

問合せ先 教育課ジオパーク推進係(下仁田町自然史館) ☎70-3070